

動労千葉の底力

弾圧突きぬけストをうちぬく

JR発足後、初の本格的ストをうちぬく

一波、二波の闘いを引き継いで、ついに十二・五列車をストップさせる乗務員の本格的ストに突入し、堂々とそれを貫徹した。

われわれは、労働運動総体が「連合」発足という逆流の中にあつて、それに屈服せず、自力で困難を突きぬけ連続的に三波のストライキをうちぬいたのである。

新聞、テレビですら「東中野事故の原因究明求めて」「民営化後初のスト」「十万人の足に影響」等々と十二・五ストの意味と影響の大きさについて報道している。

弾圧体制をうち破り敢然と闘う

十二・五ストは、JR東日本当局の根こそぎスト破壊動員と警察・機動隊の弾圧体制をうち破つてかちとられた文字通りの実力ストである。その中で、実に全乗務員、百パーセントのスト決起である。

「一企業一組合」路線にもとづいて組合つぶし

われわれの闘いは、JR当局、JR総連革マル一体となった職場支配、極限的労働強化、運転保安・保守の危機、基本的権利の剝奪状況といった中で苦闘し、怒る全国鉄労働者に希望と勝利の確信を与えた。とりわけ、清算事業団決戦に立ちあがっている現場の国労組合員に限りない勇気と激励を与えたと確信する。

全面的なスト破り体制にもかかわらず、三百五十本の列車を運休に追いつこんだこの闘いは、事業団闘争を中心とする九〇年の闘いの重大な突破口をこじあげたのである。

スト破りを拒否し四名の仲間が動労千葉に加入

JR当局は、われわれのやむにやまれぬストに対し、違法にもスト破りにのり出した。

スト当日の年休に時季変更権を行使するとも、他組合の公休、特休者に対し業務命令を乱発して勤務指定を開始、この露骨なスト破り強要にたいし国労組合員をはじめ職場の労働者は怒りの弾効に立ちあがるのである。その渦中から千葉転で二名、津田沼で二名の仲間が「スト破りはできない」と意を決して動労千葉に結集し、ストに突入したのである。

四名の勇気ある決起を心から讃え、熱いスクラムで迎えた。

結集した仲間の決意

(A君)

私は十二・五平野君の一周忌の法要に参加した。その私が十二・五一周年のストライキでスト破りをやることはできない。決意して動労千葉に加入したので、なにとぞよろしくお願ひします。

トップ交渉の実現
反合・運動保安確立へむけ道開く

ストライキの最中に、われわれが数ヶ月にわたって要求してきた「トップ交渉」を実現させ、その中で、「東中野事故の原因究明をはじめとした運転保安要求」等に対して、それを否定しえないところまで論究してきた。また、われわれの闘いを契機として、マスコミ等も「JRの安全問題」をとりあげざるを得ない状況をつくりだしてきてい

る。そしてなによりも、われわれの要求と闘いが全国鉄労働者の心に共鳴してきていることである。まさに、今秋季闘争は、三月ダイ改を目前にして反合・運動保安闘争の大きな展望を切りひらいたと確信できるのである。

三波ストの地平をうちぬき、九〇年の勝利にむかって闘う体制を堅持・強化しよう。

12/6 定期委員会を成功させる



動労千葉のストに感動

忘れてならぬ 労組のABC

静岡県 田中 時久 (自営業 62歳)

労働界は今、「ゆとりと豊かさ」を求め、二十一世紀の生活像という華々しいうたい文句で、八百万人の新「連合」の結成を「統一賛歌」している。だがそこには、夢を食い自己陶醉する大企業労組幹部の姿だけが映り、変哲もない労使一体のセシモノを見るようである。

その中で、「動労千葉がスト突入」の記事は、労働組合は生きていたという心を強く感動を与えてくれる。「スト突入」という言葉が、こんなに素晴らしい

新鮮な心をうつすところか、不思議なところである。使用者による、たとえ一人の労働者に対する権利の侵害も許さない、その侵害排除、差別の撤廃には、組織の総力をあけて使用者と対決するといふ労働組合のABCを忘れては、「真に豊かな」労働者が恵まれた「二十一世紀の社会」を築くことはできない。

戦後、焼け跡の学園で受けた初めての労働法講義で、「賃金値上げの相談をしただけで破産恥罪と同じに処罰された、長い苦難の歴史を翻って、労働者は今日の権利を自ら獲得した」という意味の言葉が「スト突入」の記事に重畳して思ひ出された。

勝利した10年!